

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月23日
【事業年度】	第72期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	株式会社大谷工業
【英訳名】	OTANI KOGYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 芝崎 安宏
【本店の所在の場所】	東京都品川区西五反田7丁目22番17号
【電話番号】	(03)3494-3731（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理グループマネージャー 阿部 昇
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区西五反田7丁目22番17号
【電話番号】	(03)3494-3731（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理グループマネージャー 阿部 昇
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第68期 平成19年3月	第69期 平成20年3月	第70期 平成21年3月	第71期 平成22年3月	第72期 平成23年3月
売上高 (千円)	5,184,700	5,257,703	5,551,972	4,970,788	5,606,582
経常利益 (千円)	242,496	263,937	286,800	308,678	380,273
当期純利益 (千円)	158,319	167,705	162,197	126,071	193,743
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	655,200	655,200	655,200	655,200	655,200
発行済株式総数 (千株)	8,800	8,800	8,800	8,800	8,800
純資産額 (千円)	930,230	1,064,245	1,199,962	1,299,494	1,467,778
総資産額 (千円)	4,278,646	4,104,270	4,412,744	3,896,299	4,209,197
1株当たり純資産額 (円)	105.74	120.99	136.42	147.75	166.90
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	- (-)	2 (-)	2.5 (-)	2.5 (-)	3.0 (-)
1株当たり当期純利益金 額 (円)	18.00	19.06	18.44	14.33	22.03
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	21.7	25.9	27.2	33.4	34.9
自己資本利益率 (%)	18.5	16.8	14.3	10.1	14.0
株価収益率 (倍)	11.3	9.1	8.9	13.1	7.9
配当性向 (%)	-	10.5	13.6	17.4	13.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	302,496	541,347	195,491	436,516	628,066
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	140,044	187,901	173,253	34,097	95,209
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	210,176	260,165	164,668	347,772	294,333
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	348,509	441,789	299,359	422,201	660,724
従業員数 (名)	179	178	176	175	173

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第72期の1株当たり配当額には、創業65周年記念配当0.5円を含んでおります。

## 2【沿革】

当社の前身は、昭和21年2月に設立された大谷重工業株式会社富山支社小杉製作所であり、民生用金物の生産を行っておりましたが、その後架線金物の製造を開始し、その本格化にともない分離独立いたしました。その後の当社の沿革は以下のとおりであります。

年月	概要
昭和22年6月	富山県射水郡小杉町に株式会社大谷工業小杉製作所を設立
昭和23年12月	名古屋出張所を開設、中部配電株式会社（現在の中部電力株式会社）及び日本電信電話公社東海電気通信局（現在のNTT東海総支社）などに対し、営業活動を開始
昭和29年5月	小杉研砥工業株式会社（創立、昭和16年1月）を合併し本社分工場とする。同時に社名を大谷工業株式会社と改称
昭和31年7月	東北電力株式会社への販売を目的として、宮城県仙台市に仙台工場を設置して、架線金物の製造を開始
昭和34年3月	東京工場（東京都墨田区）を設置、東京電力株式会社向け製品の製造開始
昭和35年1月	仙台工場を閉鎖し、仙台出張所を開設
昭和35年2月	東京工場を東京都江東区に移転
昭和45年10月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号TOCビル内に移転、本社工場を富山工場と改称
昭和46年1月	名古屋出張所を名古屋営業所に昇格
昭和46年2月	昭和電機製造株式会社（創立、昭和10年3月）を合併、新たに鹿沼工場（栃木県鹿沼市）を設置
昭和50年8月	事業部制をひき、東京地区に第一事業部、富山地区に第二事業部を設置
昭和52年11月	特販部を設け、鉄骨ビル・各種橋梁工事の一部に使用するスタッドの製造販売を開始
昭和59年3月	東京工場を閉鎖、諸設備を鹿沼工場に移転すると同時に、溶融亜鉛めっき設備の自動化・自動倉庫の設置等、設備の近代化に着手
昭和60年7月	鹿沼工場頭付きスタッドのJIS規格認可
昭和61年11月	櫻井鐵工株式会社の子会社としてサクライエンジニアリング株式会社設立（所在地千葉県松尾町）
昭和63年3月	鹿沼工場六角ボルト・六角ナットのJIS規格認可
昭和63年10月	富山工場溶融亜鉛めっきのJIS規格認可
昭和63年11月	日本証券業協会へ店頭売買株式として登録
平成元年7月	本社を東京都品川区北品川5丁目4番14号TOC北品川ビルに移転
平成元年9月	櫻井鐵工株式会社（創立、昭和54年5月）を合併し、同時に社名を大谷櫻井鐵工株式会社と改称 同日、従来の事業部制度を廃止し、新事業部制度として、管理本部、電力通信事業本部、建材事業本部、橋梁鉄構事業本部を新設、並びに仙台出張所を仙台営業所に、広島出張所を広島営業所に昇格するとともに、合併に伴い、大阪営業所及び福岡営業所を継承
平成4年8月	サクライエンジニアリング株式会社の社名を大谷エンジニアリング株式会社に変更するとともに所在地を東京都品川区北品川に移転
平成7年4月	事業部制を廃止、また広島営業所を閉鎖
平成7年10月	大谷エンジニアリング株式会社は事実上休眠会社となる
平成8年6月	橋梁鉄構事業を営業譲渡
平成8年9月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号TOCビルに移転
平成8年10月	社名を大谷櫻井鐵工株式会社より株式会社大谷工業に変更
平成9年3月	千葉工場の土地の約半分と、建物・機械装置等を処分
平成11年6月	鹿沼工場ISO9001認証取得
平成11年9月	富山工場ISO9001認証取得
平成16年4月	環境関連製品販売を開始
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年1月	福岡営業所を閉鎖
平成18年3月	仙台営業所を閉鎖
平成18年8月	大谷エンジニアリング株式会社清算終了
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現 大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場

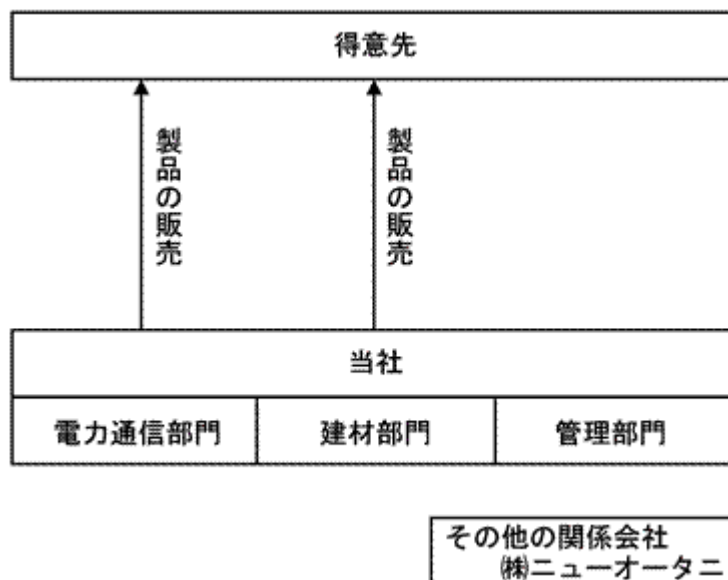
### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び(株)ニューオータニ（その他の関係会社）から構成されております。

各社の事業内容並びに当社との取引関係は下記のとおりであります。

会社名	事業内容	当社との取引関係
(株)ニューオータニ	ホテル業	当社との取引はありません。

当社グループが営んでいる主な事業は、架線金物、鉄塔・鉄構及びスタッドの設計、製造販売であります。事業に係る位置づけは次のとおりであります。



- (注) 1 電力通信部門の取扱品目は、主に架線金物及び鉄塔・鉄構であります。  
2 建材部門の取扱品目は、主にスタッドであります。

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 被所有割合 (%)	関係内容
(その他の関係会社) 株ニューオータニ (注)	東京都千代田区	3,462,000	ホテル業	24.67	事業上の関係はありません。 役員の兼任 有

(注) 有価証券報告書の提出会社であります。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
173	40.7	17.4	4,857,637

セグメントの名称	従業員数(人)
電力通信部門	140
建材部門	17
報告セグメント計	157
全社(共通)	16
合計	173

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門及び開発部門に所属しているものであります。

##### (2) 労働組合の状況

「株式会社大谷工業労働組合」として主に富山工場の従業員で構成され、平成23年3月31日現在の組合員数は、73名であります。

所属上部団体は、JAMであります。

発足以来労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国の経済は、新興国経済の需要取り込みやエコポイント制度などの景気対策実施を背景として、企業収益は改善の動きが見られ緩やかな回復基調にありました。しかしながら、依然として雇用情勢・所得環境は厳しく個人消費は伸び悩み、円の高止まりやデフレの長期化の懸念に加えて、欧州の財政問題の再燃や原油価格の高騰など不安材料も多く、景気の先行きは不透明な状況の中で推移しました。また、鋼材価格は上昇傾向が続き利益率が圧迫される厳しい状況にありました。そして、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災は未曾有の災害であり、その影響は多大なものと認識しております。当社において人的被害はなく、工場設備・棚卸資産等の直接的な物損も軽微でありましたが、予想される今後の電力不足等の影響が業界及び当社に対してどのような影響を及ぼすのかについては不透明な状況にあります。

電力業界においては、原子力発電所の再開や昨夏の猛暑による電力需要増などに伴い回復の兆しが見られはじめました。また、通信業界においては、地デジ関連の工事や次世代ネットワーク構築のための光ファイバーインフラ設備工事などにより需要が大きく伸び、好調に推移しました。

建設業界においては、公共事業投資は依然として減少傾向が続いており、民間設備投資に回復の兆しはあるものの価格競争が激化している厳しい状況にあります。

当社はこのような環境の中、各部門で営業力強化を図るとともに諸施策を実施した結果、売上高は5,606百万円と前期比635百万円（12.8%）の増加となりました。

利益面につきましては、製品別・取引先別の採算管理と原価低減、在庫の削減に努めた結果、売上総利益率は21.5%と前期比0.8%の低下となり前期を下回りましたが、売上高増加に伴い売上総利益は1,203百万円と前期比93百万円（8.4%）の増加となりました。また営業利益は341百万円と前期比54百万円（18.9%）の増加、経常利益も作業屑売却収入の増加、支払利息の減少などから380百万円と前期比71百万円（23.2%）の増加となりました。

今般、特別損失として29百万円を計上しており、その主な内訳は投資有価証券評価損として10百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額として5百万円、震災に関連する損失として災害による損失5百万円、固定資産除売却損として4百万円です。なお災害による損失の内容は破損した固定資産の修繕費や棚卸資産の損耗分であります。その結果、当期純利益は193百万円と前期比67百万円（53.7%）の増加となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

#### 電力通信部門

電力通信部門では、売上・利益とも大幅に増加しました。その内訳として、架線金物では電力用金物は微増にとどまりましたが、通信業界においては地デジ関連や次世代ネットワーク構築のための光ファイバーインフラ設備工事により大きく増加しました。また、鉄塔・鉄構は鉄塔の移設物件の工事開始により売上・利益とも増加しました。

この結果、売上は4,538百万円と前期比634百万円（16.3%）の増加、セグメント利益は658百万円と前期比129百万円（24.4%）の増加となりました。

#### 建材部門

建設業界においては、民間設備投資に回復の兆しはあるものの、公共事業投資は依然として減少傾向が続いております。当社においては、下期後半より大型物件の工事開始となり売上は1,068百万円と前期比0百万円（0.1%）でほぼ同額となりました。利益につきましては、鋼材価格の上昇や激しい価格競争により利益率が圧迫され、セグメント利益は13百万円と前期比62百万円（82.7%）の減少となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前事業年度末に比べ238百万円増加し660百万円となりました。

なお、当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動の結果得られた資金は628百万円（前期比191百万円収入増加）となりました。主な増加要因は税引前当期利益350百万円、運転資金の圧縮183百万円、資金流出を伴わない減価償却費147百万円等の計上によるものです。減少要因は法人税等100百万円の支出等によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は95百万円（前期は34百万円の収入）となりました。主な要因は有形及び無形固定資産の取得による支出87百万円、投資有価証券の取得による支出6百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は294百万円（前期比53百万円支出減少）となりました。これは主に借入返済250百万円、ファイナンス・リース債務返済22百万円、配当金の支払21百万円によるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当事業年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
電力通信部門	3,019,093	13.1
建材部門	440,919	0.8
合計	3,460,012	11.1

- (注) 1 金額は、標準原価によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当事業年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
電力通信部門	408,166	56.6
建材部門	418,902	13.7
合計	827,068	31.5

- (注) 1 金額は、実際仕入価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注実績

当事業年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
電力通信部門	4,524,068	16.5	334,690	4.1
建材部門	1,369,508	46.5	513,789	141.9
合計	5,893,576	22.3	848,479	51.1

- (注) 1 金額は、販売予定価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。



(4) 販売実績

当事業年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
電力通信部門	4,538,424	16.3
建材部門	1,068,158	0.1
合計	5,606,582	12.8

(注) 1 主な相手先の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度		当事業年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
北陸電力(株)	622,888	12.5	882,297	15.7
イワブチ(株)	590,224	11.9	857,694	15.3

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

先行きの不透明感が強い中で安定的な成長をするために、下記の点を重要課題として取り組んでおります。

- (1) 電力業界においては設備投資の抑制方針が継続され、通信業界においても整備網が一巡し新設需要はそれほど多くは望めません。そのため原価低減・新製品開発などにより製品の優位性(品質・価格など)を確立し、更新需要を着実に取り込むことが重要です。また、「提案型営業」ができる体制を整備し、取引先にとって有為なメーカーであることを追求してまいります。
- (2) 建材部門は現在苦戦しておりますが、東日本大震災の影響もあり耐震化への関心は高まりを見せております。その中で徹底した採算管理を行い、また建設業界全体の不振など種々のリスクをコントロールできるような営業・管理体制を強化することでシェア拡大を図ってまいります。
- (3) 物流費においては業容の拡大とともに、取引先の遠距離化・小口注文による発送頻度増など、運送費が増加する傾向にあります。売上を増加させる一方で、如何にして物流費負担を軽減し利益を確保するかが課題であると認識しております。
- (4) 千葉工場跡地については圏央道インターチェンジに隣接しており、成田空港との至近距離を生かした物流拠点となる可能性があり、売却以外での活用策も検討してまいります。  
また富山工場は市街地にあり周辺環境への影響、手狭で拡張の余地がないことを考えると移転も含めて将来の課題と認識しております。

#### 4【事業等のリスク】

当社の経営成績及び財政状態、また提出会社の株価等に影響を及ぼす可能性のあるリスク等には次のような事項が考えられます。なお、本文中における将来に関する事項は当事業年度末現在において当社が判断したものであり、実際の効果とは異なる可能性があります。

##### (1) 営業成績の異常な変動

主力製品である架線金物は鉄鋼材料の比率が高く、その価格変動は収益への影響が甚大です。販売価格へ速やかな転嫁が出来なければ、同部門の業績が経営成績に大きな変動を与える可能性があります。

##### (2) 品質管理に関する業績への変動

品質管理には万全の体制を構築していますが、万一製品に欠陥等があった場合には、同種の金物全品の取替え責任を負い、多額の一時費用が発生する可能性があります。

##### (3) キャッシュ・フローの異常な変動

販売先の業績不振等により資金が固定化し、キャッシュ・フローが減少する可能性があります。スタッドの販売先は建設業界でありそのウエートも年々増加しておりますが、昨今の市場環境を踏まえ、中堅先は決算内容を定期的に検証し過度に販売が集中しないよう営業与信の管理を徹底しております。

##### (4) 旧千葉工場の減損処理について

遊休地の状態が続きますと、今後の地価動向によっては再度減損処理が必要になる可能性があります。

##### (5) 自然災害による損害について

大地震等の自然災害の発生により、直接的又は間接的に予期せぬ損害を被る可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社の研究開発活動は、お客様のニーズに合わせた製品開発を基本としております。新規製品の開発及び現行品の改善では、これまでの蓄積した製造技術から得た固有の技術や最新設備の導入による新技術を生かした製品の開発を推進しており、積極的提案への取組みを基本姿勢としております。

また、主要取引先である各通信会社、電力会社、建設会社等から、既存製品のコスト低減や新規製品を目的とした「V E・V A提案」の要請を前年度以上強く求められており、その要請に応えるべく、開発及び改善活動を展開いたしました。

その研究開発活動の結果、当事業年度は次の成果を得ました。

### (1) 電力通信部門

固有技術の高度化による開発

- ・間接活線工法の研究及び開発
- ・架線金物の安全性向上に向けた振動試験研究
- ・ボルトナットの研究（アプセット化、フランジボルト等）
- ・鳥害防止に関する研究

既存技術の適用拡大による生産工程の改善

- ・現場の作業性を考慮した改善提案・製品化（架空光クロージャー並列設置金物）
- ・コストダウン提案・製品化（支持線接続金物/短尺支持線接続金物）

ニーズに基づく新製品開発

- ・高耐食性めっきの研究と製品化（亜鉛アルミ合金めっき製品）
- ・地域性（北陸）を生かした雪害対策の研究
- ・電線ドラムの運搬時固定金具の研究（ドラム巻ロープ外れ止め金物）

### (2) 建材部門

ニーズに基づく新製品開発

- ・現場打ちスタッドの研究（モニタリング機構）

この結果、当事業年度の研究開発費は67,683千円となりました。

なお、研究開発費は開発グループの人件費をセグメント及び品目別に区分することは困難なため、セグメント及び品目別金額については記載しておりません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本文中における将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

### (1) 財政状態の分析

#### （総資産）

総資産は前事業年度末に比べ312百万円増加し4,209百万円となりました。主な要因は売上高増加に伴い売上債権が120百万円増加したこと、在庫圧縮により棚卸資産が40百万円減少したこと、業績好調により現預金が238百万円増加したことによるものです。引き続き資産の圧縮を図り効率的な経営を目指します。

#### （負債）

負債は前事業年度末に比べ144百万円増加し2,741百万円となりました。主な要因は仕入債務が263百万円、設備関係未払金が88百万円、未払法人税等が53百万円増加したこと、借入金を250百万円返済したことによるものです。

#### （純資産）

純資産は前事業年度末と比べ168百万円増加し1,467百万円となりました。これは主に当期純利益による193百万円の増加と配当金21百万円を支払ったことによるものです。

### (2) キャッシュ・フローの分析

「1 業績等の概要(2) キャッシュ・フロー」をご参照ください。

### (3) 経営成績の分析

「1 業績等の概要(1) 業績」をご参照ください。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当事業年度は主に経常的設備の更新、補充を目的として電力通信部門149百万円、建材部門0百万円、全社（共通）部門2百万円の設備投資を行いました。

また、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
富山工場 (富山県射水市)	電力通信 部門	架線金物及び 鉄塔・鉄構製 造販売設備	112,735	87,744	93,939 (12,717.74)	1,052	11,409	306,880	83
鹿沼工場 (栃木県鹿沼市)	電力通信 部門 建材部門	架線金物及び スタッド製造 設備	103,413	206,104	30,220 (35,358.46)	43,772	4,671	388,182	60
本社 (東京都品川区)	全社共通	販売管理統括 施設	133	1,208	-	1,908	1,802	5,053	30
旧千葉工場 (千葉県山武市)	全社共通		6,579	-	365,318 (120,641.78)	-	-	371,897	-

(注) 帳簿価額のうち「その他」は工具器具及び備品の合計であり、建設仮勘定は含めておりません。なお、金額には消費税等を含めておりません。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月23日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	8,800,000	8,800,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株で あります。
計	8,800,000	8,800,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年6月27日(注)	-	8,800	-	655,200	86,453	221,972

(注) 欠損填補によるものであります。

(6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							計	単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	7	7	72	0	0	444	530	
所有株式数(単元)	0	802	12	3,689	0	0	4,291	8,794	6,000
所有株式数の割合(%)	0.00	9.12	0.13	41.95	0.00	0.00	48.80	100.00	

(注) 自己株式5,608株は「個人その他」に5単元、「単元未満株式の状況」欄に608株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ニューオータニ	東京都千代田区紀尾井町4番1号	2,168	24.63
奈迫昭子	東京都千代田区	1,388	15.77
大谷正子	東京都千代田区	1,283	14.57
(株)テーオーシーサプライ	東京都品川区西五反田7丁目22番17号	400	4.54
(株)三井住友銀行	東京都千代田区有楽町1丁目1番2号	300	3.40
大谷富山取引先持株会	富山県射水市戸破3456	249	2.82
大谷鹿沼取引先持株会	東京都品川区西五反田7丁目22番17号	223	2.53
(有)オオタニファンド	東京都品川区西五反田7丁目22番17号	180	2.04
(株)北陸銀行	富山県富山市堤町通り1丁目2番26号	150	1.70
(株)みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1丁目1番5号	150	1.70
計	-	6,491	73.76

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,789,000	8,789	-
単元未満株式数 (注)	普通株式 6,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	8,800,000	-	-
総株主の議決権	-	8,789	-

(注) 「単元未満株式」の株式数の欄には、当社所有の自己株式が608株含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社大谷工業	東京都品川区西五反田 7丁目22番17号	5,000	-	5,000	0.06
計	-	5,000	-	5,000	0.06

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	998	185
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他( )	-	-	-	-
保有自己株式数	5,608	-	5,608	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。



### 3【配当政策】

当社は株主の皆様への長期的利益還元を重要な経営課題と考え、継続的かつ安定配当をすることを基本としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当は業績内容を勘案し、年間3.0円といたしました。これは普通配当としての2.5円に弊社創業65周年の「記念配当」として0.5円を加えたものであります。

また、内部留保金につきましては今後の生産設備等の充実に図り、市場ニーズに対応した事業展開に備えることとしております。

なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年6月23日 定時株主総会決議	26,383	3.0

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	295	225	200	210	200
最低(円)	170	159	98	157	166

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	190	190	190	183	184	187
最低(円)	180	180	181	180	175	166

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月11日以前は大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		大谷 和彦	昭和21年7月8日生	昭和50年5月 当社取締役 平成5年6月 株式会社ホテルニューオータニ(現㈱) " " ニューオータニ)代表取締役社長(現) " " 株式会社ホテルニューオータニ九州(現 " " ㈱ニューオータニ九州)代表取締役会長 (現) 平成6年6月 株式会社ニューオータニリゾートホテル ズ(現㈱ニューオータニリゾート)代表 取締役会長(現) 平成7年6月 当社代表取締役会長 " " 株式会社テオーシー代表取締役会長 (現) 平成11年2月 株式会社ニューオータニエンタープライ ズ(現HRTニューオータニ㈱)代表取締 役名誉会長(現) 平成19年10月 当社取締役会長(現)	(注)3	93
取締役副会長		小平 健	昭和26年12月31日生	平成12年6月 株式会社ニューオータニ取締役マネージ メントサービス室長 平成17年4月 当社顧問 " 6月 当社代表取締役副会長 平成20年6月 当社取締役副会長(現) " 6月 株式会社テオーシー取締役ビル施設管 理部門並びに安全管理推進室担当 平成21年4月 同社取締役ビル施設管理部門並びに安全 管理推進室担当及び秘書室管掌(現) 平成23年6月 株式会社TOCディレクション取締役 (現)	(注)3	-
取締役社長 代表取締役		芝崎 安宏	昭和22年3月25日生	昭和44年3月 当社入社 平成4年3月 当社建材事業本部建材営業部次長 平成9年5月 当社電設営業グループサブマネージャー 平成15年6月 当社理事管理グループ企画担当 平成16年6月 当社取締役管理部門担当 平成17年6月 当社代表取締役社長 平成19年6月 当社代表取締役社長鹿沼工場担当(現)	(注)3	18
常務取締役	開発・営 業第一担 当兼営業 第三グル ープマネ ージャー	東 真佐利	昭和23年4月28日生	昭和47年4月 当社入社 平成18年6月 当社理事営業第一グループマネージャー 平成19年6月 当社取締役営業第一グループマネ ージャー 平成21年6月 当社常務取締役開発担当兼営業第一・営 業第三グループマネージャー 平成23年3月 当社常務取締役開発・営業第一担当兼営 業第三グループマネージャー(現)	(注)3	13
取締役	管理グル ープマネ ージャー	阿部 昇	昭和28年2月14日生	平成16年4月 株式会社三井住友銀行本店上席調査役 " 5月 当社理事管理グループマネージャー 平成17年6月 当社取締役管理グループマネージャー (現)	(注)3	3
取締役	営業第二 ・富山工 場担当	平野 啓次	昭和27年1月12日生	平成15年7月 北陸電力株式会社富山支店営業部住宅シ ステム提案部長 平成17年7月 当社理事営業第二グループマネージャー 平成21年6月 当社取締役営業第二・富山工場担当 (現)	(注)3	2
取締役	富山工場 グループ マネー ジャー	清末 茂	昭和27年4月8日生	昭和51年4月 当社入社 平成18年6月 当社理事富山工場グループマネージャー 平成21年6月 当社取締役富山工場グループマネ ージャー(現)	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		奈迫龍正	昭和27年12月30日生	昭和55年12月 昭和59年6月 平成3年6月 平成4年11月 平成9年6月 " "	当社入社 当社取締役管理室企画部長 当社常務取締役人事開発担当 当社常務取締役建材事業本部副本部長 当社取締役(現) 株式会社鎌倉大谷記念館常務取締役 (現)	(注)3	11
取締役		大谷卓男	昭和28年6月11日生	昭和63年6月 平成5年6月 平成7年6月 " " 平成10年7月 平成12年10月 平成19年8月 平成21年8月 " "	株式会社テーオーシー取締役 同社代表取締役社長(現) 当社取締役(現) 株式会社ホテルニューオータニ(現株 ニューオータニ)取締役(現) ㈱テーオーリネンサプライ代表取締役会 長(現) 星製薬㈱代表取締役社長(現) 株式会社TOC-index代表取締役社長 (現) 株式会社TOCディレクション代表取締役 社長(現) 株式会社TOLコマーシャル・ディレク ション(現株TOLCD)代表取締役会長 (現)	(注)3	18
取締役		川野毅	昭和28年2月27日生	平成12年6月 平成20年6月 平成20年6月	株式会社ニューオータニ取締役経営管理 室長 株式会社ニューオータニ代表取締役経営 管理室長(現) 当社取締役(現)	(注)3	-
監査役 (常勤)		鳥居一郎	昭和24年5月6日生	昭和49年4月 平成9年3月 平成17年6月 平成20年6月	当社入社 当社富山工場次長兼品質保証課長 当社理事鹿沼工場グループマネージャー 当社監査役(現)	(注)4	4
監査役		稲葉弘文	昭和34年4月2日生	平成12年8月 平成16年2月 平成17年2月 平成18年6月	三陽紙器株式会社代表取締役社長 株式会社サンキュージャパン代表取締役 社長(現) 三陽エンジニアリング株式会社代表取締 役社長(現) 株式会社テーオーシー取締役(現)	(注)5	3
監査役		羽廣元和	昭和20年9月15日生	平成8年6月 平成20年6月 " " 平成23年6月	株式会社テーオーシー取締役経理部長兼 総務担当 大崎再開発ビル株式会社代表取締役副社 長(現) 株式会社テーオーシー常務取締役事務管 理部門担当、製薬事業部門管掌(現) 株式会社テーオーシーサプライ代表取締 役社長(現)	(注)4	-
計							166

- (注) 1 取締役大谷卓男は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2 監査役稲葉弘文及び羽廣元和は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
3 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
4 監査役鳥居一郎及び羽廣元和の任期は、平成20年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
5 監査役稲葉弘文の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
6 取締役奈迫龍正の配偶者は、取締役会長大谷和彦の姉であります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

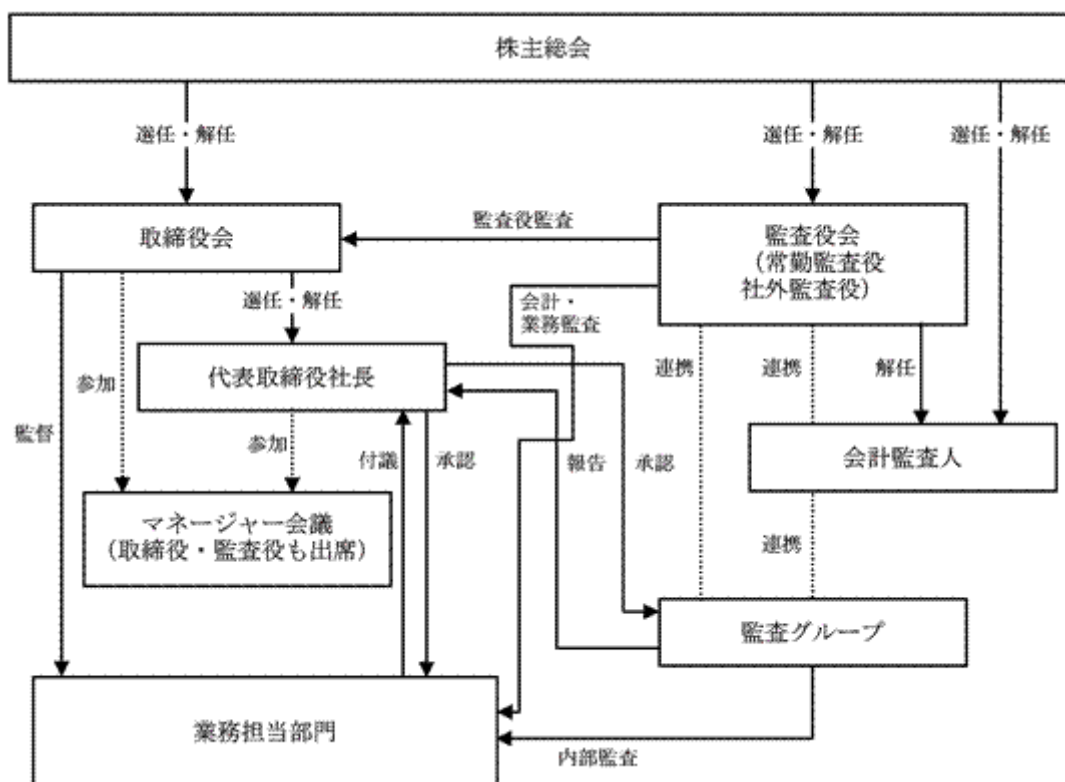
#### (a) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の透明性や経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を確立し、法令を遵守し企業価値の向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

#### (b) コーポレート・ガバナンスの体制

当社は、少人数の取締役による管理体制を維持し、情報把握並びに意思決定における的確性・迅速性を確保するとともに、株主重視の観点から必要な会社情報を適時・的確にディスクロージズしております。

当社における会社の機関・内部統制システム等の関係は、次のとおりであります。



取締役会は社外取締役1名を含む10名で構成され、定例取締役会を毎月1回、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令または定款の定める事項のほか業務執行の基本事項について会社の意思を決定するとともに、業務執行状況の報告を受け、取締役の適正な業務執行が図られるよう監督しております。

監査役会は監査役3名（うち社外監査役2名）で構成され、毎月1回開催し、その職務の遂行上知り得た情報を相互に共有し、意見交換を行い、連携を図っております。また、監査役は取締役会に、さらに常勤監査役はその他業務部門の重要な会議等にも出席し、取締役会のほか重要な意思決定の過程及び業務執行状況を監査しております。

内部監査部門として、社内に監査グループ（人員1名）を設置し各部門の業務監査及び内部統制監査を行っております。

また、弁護士や税理士からより専門的な立場での適切なアドバイスを得るため顧問契約を結び万全を期しております。

以上の体制及びその運用により、経営監視機能の実効性と独立性は十分に確保されていると考えており現在の体制を採用しております。

#### (c) 取締役の定数

当社の取締役は3名以上とする旨定款に定めております。

#### (d) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

(e) 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、取締役会の決議によって、毎年9月30日現在の最終の株主名簿等に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

ロ 取締役及び監査役の実任免除

当社は、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的として、会社法第423条第1項に規定する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は監査グループが担当し、内部監査年間計画書に基づく通常監査と社長の命により随時行う特命監査を実施しております。監査結果は被監査部門に説明し意見を聴取し、内部監査報告書により社長及び監査役に報告し監査の連携を図っております。また、内部統制部門が実施する統制状況について内部統制監査を実施し、内部統制の有効性についての評価及びフィードバックを行っております。

監査役は、取締役会その他業務部門の重要な会議等へ出席し取締役会ほかの重要な意思決定の過程及び業務執行状況を監査することにより、監査役機能の実効性の確保を図っております。また、監査グループから監査計画と監査結果について定期的な報告を受けるほか、必要に応じて会計監査人の往査及び監査講評等に立ち会うなど、監査グループ及び会計監査人と相互に密接な連携を保ち効率的な監査を実施しております。

社外取締役及び社外監査役との関係等

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。

社外取締役大谷卓男氏は㈱テーオーシーの代表取締役であり、当社は同社から事務所の一部を賃借しております。同氏は当社株式を18千株保有しております。

社外監査役稲葉弘文氏は㈱テーオーシーの社外取締役を兼務しております。同氏は当社株式を3千株保有しております。また、社外監査役羽廣元和氏は㈱テーオーシーの常務取締役であります。

それぞれの社外取締役及び社外監査役の選任理由は次のとおりであります。

社外取締役大谷卓男氏は、企業経営者としての豊富な経験と高い経営的見識を有しており、社外取締役として業務執行を行う経営陣から独立した立場で適切な助言と提言を受けることにより、当社の経営に資することが大きいと判断し、選任しております。

社外監査役稲葉弘文氏及び社外監査役羽廣元和氏は、企業経営者としての豊富な経験と幅広い知見に基づき適切に監査業務を遂行していただけると判断し、社外監査役に選任しております。

社外取締役は取締役会を通じて必要な情報の収集及び意見の表明を行うことにより、また、社外監査役は会計監査人や内部監査部門及び内部統制部門との連携を図ることにより、経営監視機能の充実を図っております。

役員の報酬等

(a) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	84	79	-	-	5	9
監査役 (社外監査役を除く。)	8	8	-	-	0	1
社外役員	6	6	-	-	-	3

(b) 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(c) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬額は次に掲げる方法により、経営内容、世間水準および従業員給与とのバランス等を考慮して決定しております。

イ 取締役の報酬は、株主総会が決定する報酬総額の限度内において、役位および就任年数等を勘案して取締役会で決定する。

ロ 監査役の報酬は、株主総会が決定する報酬総額の限度内において監査役の協議で決定する。

株式の保有状況

(a) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 10銘柄

貸借対照表計上額の合計額 58百万円

(b) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び

保有目的

前事業年度

特定株式投資

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東京電力(株)	5,000	12	主に架線金物の取引関係維持強化のため
北陸電力(株)	5,000	10	架線金物及び鉄塔・鉄構の取引関係維持強化のため
イワブチ(株)	21,000	9	主に架線金物の取引関係維持強化のため
(株)関電工	12,000	7	主に架線金物の取引関係維持強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,100	6	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
(株)トーエネック	11,640	5	主に架線金物の取引関係維持強化のため
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	24,000	4	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
北陸電気工事(株)	15,000	3	架線金物及び鉄塔・鉄構の取引関係維持強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	7,200	3	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	17,000	3	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため

当事業年度  
特定株式投資

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)トーエネック	24,426	12	主に架線金物の取引関係維持強化のため
イワブチ(株)	21,000	10	主に架線金物の取引関係維持強化のため
北陸電力(株)	5,000	9	架線金物及び鉄塔・鉄構の取引関係維持強化のため
(株)関電工	12,000	5	主に架線金物の取引関係維持強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,100	5	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
北陸電気工事(株)	15,000	4	架線金物及び鉄塔・鉄構の取引関係維持強化のため
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	24,000	3	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	7,200	2	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	17,000	2	金融取引にかかる取引先としての関係維持強化のため
東京電力(株)	5,000	2	主に架線金物の取引関係維持強化のため

会計監査の状況

会計監査人は有限責任監査法人トーマツを選任し、法定監査を受けております。

業務を執行した公認会計士の氏名については次のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	継続監査年数(注)
小島 洋太郎	-
青柳 淳一	-

(注) 継続監査年数が全員7年以内であるため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成は次のとおりであります。

監査業務に係る補助者の構成	人数(名)
公認会計士	3
その他	5

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前事業年度		当事業年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	23	-	23	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

特に方針を決定しておりません。



## 第5【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容の適切な把握及び変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入及び各種団体や監査法人主催のセミナー等に参加しております。

1【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	422,201	660,724
受取手形	383,982	420,572
売掛金	918,112	1,002,141
商品及び製品	408,767	339,106
仕掛品	266,361	289,236
原材料及び貯蔵品	122,826	129,168
前払費用	8,899	7,974
繰延税金資産	58,399	72,712
その他	4,235	5,745
貸倒引当金	391	428
流動資産合計	2,593,394	2,926,955
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,131,572	1,172,335
減価償却累計額	964,961	971,203
建物(純額)	166,611	201,132
構築物	175,775	178,945
減価償却累計額	154,245	157,215
構築物(純額)	21,530	21,730
機械及び装置	1,835,462	1,894,441
減価償却累計額	1,515,857	1,601,084
機械及び装置(純額)	319,604	293,356
車両運搬具	13,715	15,633
減価償却累計額	12,806	13,933
車両運搬具(純額)	908	1,699
工具、器具及び備品	177,158	180,639
減価償却累計額	159,812	162,756
工具、器具及び備品(純額)	17,345	17,883
土地	516,685	516,685
リース資産	112,724	103,523
減価償却累計額	44,820	56,791
リース資産(純額)	67,903	46,732
建設仮勘定	4,368	9,038
有形固定資産合計	1,114,957	1,108,259
無形固定資産		
ソフトウェア	2,035	5,019
電話加入権	1,972	1,972
リース資産	1,063	-
その他	-	5,581
無形固定資産合計	5,071	12,573

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	93,746	85,532
関係会社株式	10,500	10,500
出資金	3,517	3,517
従業員に対する長期貸付金	15,944	12,804
長期前払費用	2,885	1,240
差入保証金	20,728	20,298
会員権	29,308	30,408
繰延税金資産	15,715	2,001
その他	4,774	9,549
貸倒引当金	14,242	14,441
投資その他の資産合計	182,876	161,409
<b>固定資産合計</b>	<b>1,302,904</b>	<b>1,282,242</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,896,299</b>	<b>4,209,197</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	610,549	855,424
買掛金	342,737	361,848
短期借入金	1, 2 750,000	1, 2 500,000
リース債務	22,295	18,684
未払金	12,444	26,245
設備関係未払金	-	71,258
未払費用	159,835	187,598
未払法人税等	51,125	104,365
未払消費税等	25,673	9,956
その他	42,036	15,065
流動負債合計	2,016,697	2,150,446
<b>固定負債</b>		
リース債務	46,888	28,204
長期設備関係未払金	-	23,993
退職給付引当金	444,521	430,763
役員退職慰労引当金	52,784	58,832
長期預り保証金	35,914	43,205
資産除去債務	-	5,975
固定負債合計	580,107	590,972
<b>負債合計</b>	<b>2,596,804</b>	<b>2,741,418</b>

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	655,200	655,200
資本剰余金		
資本準備金	221,972	221,972
資本剰余金合計	221,972	221,972
利益剰余金		
利益準備金	5,280	5,280
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	416,391	588,146
利益剰余金合計	421,671	593,426
自己株式	860	1,045
株主資本合計	1,297,983	1,469,552
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,511	1,773
評価・換算差額等合計	1,511	1,773
純資産合計	1,299,494	1,467,778
負債純資産合計	3,896,299	4,209,197

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	4,970,788	5,606,582
<b>売上原価</b>		
商品及び製品期首たな卸高	421,649	408,767
当期商品仕入高	628,996	827,068
当期製品製造原価	<sup>1</sup> 3,218,338	<sup>1</sup> 3,506,851
<b>合計</b>	<b>4,268,984</b>	<b>4,742,687</b>
他勘定振替高	-	<sup>2</sup> 846
商品及び製品期末たな卸高	408,767	339,106
<b>売上原価合計</b>	<b><sup>3</sup> 3,860,216</b>	<b><sup>3</sup> 4,402,735</b>
<b>売上総利益</b>	<b>1,110,572</b>	<b>1,203,847</b>
販売費及び一般管理費	<sup>1, 4</sup> 823,119	<sup>1, 4</sup> 862,111
<b>営業利益</b>	<b>287,452</b>	<b>341,736</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	536	361
受取配当金	4,328	3,916
作業くず売却益	26,149	34,338
不動産賃貸料	7,800	7,800
雑収入	4,447	6,113
<b>営業外収益合計</b>	<b>43,260</b>	<b>52,529</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	20,153	12,290
撤去解体費用	-	1,500
雑損失	1,881	201
<b>営業外費用合計</b>	<b>22,034</b>	<b>13,992</b>
<b>経常利益</b>	<b>308,678</b>	<b>380,273</b>
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	<sup>5</sup> 2	-
投資有価証券売却益	4,184	-
貸倒引当金戻入額	1,981	-
<b>特別利益合計</b>	<b>6,169</b>	<b>-</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	<sup>6</sup> 2,750	<sup>6</sup> 4,344
減損損失	<sup>7</sup> 82,789	-
災害による損失	-	5,098
投資有価証券売却損	2,960	-
投資有価証券評価損	-	10,017
ゴルフ会員権評価損	3,000	1,000
環境対策費	-	2,844
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	5,975
<b>特別損失合計</b>	<b>91,500</b>	<b>29,279</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>223,347</b>	<b>350,994</b>
法人税、住民税及び事業税	111,675	156,813
法人税等調整額	14,399	437
<b>法人税等合計</b>	<b>97,275</b>	<b>157,250</b>
<b>当期純利益</b>	<b>126,071</b>	<b>193,743</b>

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	1,627,880	51.8	1,965,608	55.6
労務費		743,840	23.7	791,921	22.4
経費		769,158	24.5	776,244	22.0
(うち外注加工費)		(382,390)	12.2	(347,332)	9.8
(うち減価償却費)		(142,821)	4.5	(136,828)	3.9
当期総製造費用		3,140,879	100.0	3,533,774	100.0
期首仕掛品たな卸高		343,820		266,361	
合計		3,484,699		3,800,136	
期末仕掛品たな卸高		266,361		289,236	
他勘定振替高		-		4,047	
当期製品製造原価		3,218,338		3,506,851	

(原価計算の方法)

前事業年度	当事業年度
原価計算の方法は標準原価に基づく工程別総合原価計算によっております。 原価差額は期末において税法の規定に基づき処理しております。	同左

(注) 1. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
研究開発費への振替高(千円)	-	811
災害による損失への振替高(千円)	-	3,236
合計(千円)	-	4,047

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	655,200	655,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	655,200	655,200
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	221,972	221,972
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	221,972	221,972
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	221,972	221,972
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	221,972	221,972
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	5,280	5,280
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,280	5,280
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	312,310	416,391
当期変動額		
剰余金の配当	21,990	21,988
当期純利益	126,071	193,743
当期変動額合計	104,080	171,754
当期末残高	416,391	588,146
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	317,590	421,671
当期変動額		
剰余金の配当	21,990	21,988
当期純利益	126,071	193,743
当期変動額合計	104,080	171,754
当期末残高	421,671	593,426
<b>自己株式</b>		
前期末残高	699	860
当期変動額		
自己株式の取得	160	185
当期変動額合計	160	185
当期末残高	860	1,045

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	1,194,063	1,297,983
当期変動額		
剰余金の配当	21,990	21,988
当期純利益	126,071	193,743
自己株式の取得	160	185
当期変動額合計	103,919	171,569
当期末残高	1,297,983	1,469,552
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	7,664	1,511
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,152	3,285
当期変動額合計	6,152	3,285
当期末残高	1,511	1,773
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	1,764	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,764	-
当期変動額合計	1,764	-
当期末残高	-	-
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	5,899	1,511
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,388	3,285
当期変動額合計	4,388	3,285
当期末残高	1,511	1,773
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	1,199,962	1,299,494
当期変動額		
剰余金の配当	21,990	21,988
当期純利益	126,071	193,743
自己株式の取得	160	185
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,388	3,285
当期変動額合計	99,531	168,284
当期末残高	1,299,494	1,467,778



## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	223,347	350,994
減価償却費	155,256	147,662
減損損失	82,789	-
災害損失	-	5,098
貸倒引当金の増減額（ は減少）	9,743	235
退職給付引当金の増減額（ は減少）	8,131	13,758
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	1,758	6,048
受取利息及び受取配当金	4,864	4,277
支払利息	20,153	12,290
投資有価証券売却損益（ は益）	1,224	0
投資有価証券評価損益（ は益）	-	10,017
有形及び無形固定資産除売却損益（ は益）	2,747	4,344
ゴルフ会員権評価損	3,000	1,000
環境対策費	-	2,844
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	5,975
売上債権の増減額（ は増加）	230,295	120,619
たな卸資産の増減額（ は増加）	123,075	40,444
仕入債務の増減額（ は減少）	225,321	263,986
その他	6,563	22,927
小計	602,837	735,214
利息及び配当金の受取額	4,868	4,298
利息の支払額	24,301	11,298
法人税等の支払額	146,887	100,147
営業活動によるキャッシュ・フロー	436,516	628,066
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	90,000	-
定期預金の払戻による収入	180,000	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	77,549	87,962
有形及び無形固定資産の売却による収入	40	-
投資有価証券の取得による支出	33,190	6,266
投資有価証券の売却による収入	52,941	139
貸付金の回収による収入	1,770	980
ゴルフ会員権の取得による支出	2,095	2,100
ゴルフ会員権の売却による収入	1,180	-
保証金の回収による収入	1,000	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	34,097	95,209
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	-	250,000
長期借入金の返済による支出	300,000	-
配当金の支払額	21,853	21,852
ファイナンス・リース債務の返済による支出	25,758	22,295
その他	160	185
財務活動によるキャッシュ・フロー	347,772	294,333
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	122,841	238,523
現金及び現金同等物の期首残高	299,359	422,201
現金及び現金同等物の期末残高	422,201	660,724

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1 有価証券の評価基準及び 評価方法	<p>その他有価証券</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</li> <li>・時価のないもの 移動平均法による原価法</li> </ul>	<p>その他有価証券</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時価のあるもの 同左</li> <li>・時価のないもの 同左</li> </ul>
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デリバティブ 時価法</li> </ul>	
3 たな卸資産の評価基準及び評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品及び製品、仕掛品 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)</li> <li>・原材料及び貯蔵品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品及び製品、仕掛品 同左</li> <li>・原材料及び貯蔵品 同左</li> </ul>
4 固定資産の減価償却の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法) なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 6～38年 機械及び装置 3～10年</li> <li>・無形固定資産(リース資産を除く) 自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法</li> <li>・リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法</li> <li>・長期前払費用 均等額償却</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産(リース資産を除く) 同左</li> <li>・無形固定資産(リース資産を除く) 同左</li> <li>・リース資産 同左</li> <li>・長期前払費用 同左</li> </ul>

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
5 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般債権 貸倒実績率法</li> <li>・貸倒懸念債権等特定の債権 財務内容評価法</li> </ul> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 退職給付引当金 同左</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 同左</p>
6 ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を適用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッジ手段 金利スワップ</li> <li>・ヘッジ対象 借入金</li> </ul> <p>(3) ヘッジ方針 借入金に係る金利変動リスクを回避する目的で、対象物の範囲内に限定してヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性の評価方法 契約の内容等によりヘッジに高い有効性が認められるため、ヘッジの有効性の判定を省略しております。</p>	
7 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	同左
8 消費税等の会計処理	<p>消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。</p>	同左

【会計処理方法の変更】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
資産除去債務に関する会計基準等		(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。 これにより税引前当期純利益は5,975千円減少しております。

【表示方法の変更】

項目	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
貸借対照表	前事業年度において独立掲記しておりました「設備関係未払金」は、金額が僅少となったため、当事業年度においては流動負債の「その他」に含めて表示しております。 なお、当事業年度末の流動負債の「その他」に含まれる「設備関係未払金」は6,782千円であります。	前事業年度において流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「設備関係未払金」は、負債及び純資産の合計額の100分の1を超えたため当事業年度より区分掲記しております。 なお、前事業年度末の流動負債の「その他」に含まれる「設備関係未払金」は6,782千円であります。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)		当事業年度 (平成23年3月31日)	
1 有形固定資産のうち、次の資産を短期借入金680,000千円の担保に供しております。		1 有形固定資産のうち、次の資産を短期借入金450,000千円の担保に供しております。	
建物	8,293千円	建物	7,696千円
土地	440,739 "	土地	440,739 "
計	449,033千円	計	448,436千円
工場財団		工場財団	
建物	150,889千円	建物	174,409千円
構築物	20,790 "	構築物	19,972 "
機械及び装置	319,530 "	機械及び装置	257,377 "
土地	50,957 "	土地	50,957 "
計	542,167千円	計	502,717千円
合計	991,201千円	合計	951,153千円
2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。		2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。	
当座貸越極度額の総額	400,000千円	当座貸越極度額の総額	400,000千円
借入実行残高	- "	借入実行残高	- "
差引額	400,000千円	差引額	400,000千円

( 損益計算書関係 )

前事業年度 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日 )	当事業年度 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日 )
<p>1 研究開発費の総額</p> <p>一般管理費 50,144千円</p> <p>当期総製造費用 1,696 "</p> <hr/> <p>計 51,840千円</p>	<p>1 研究開発費の総額</p> <p>一般管理費 64,640千円</p> <p>当期総製造費用 3,042 "</p> <hr/> <p>計 67,683千円</p>
<p>3 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">537千円</p>	<p>3 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">2,051千円</p>
<p>4 販売費及び一般管理費のうち、販売費に属する費用及び一般管理費に属する費用のおおよその割合は60%と40%であります。</p> <p>主な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <p>販売手数料 15,827千円</p> <p>荷造運送費 152,369 "</p> <p>役員報酬 89,490 "</p> <p>給与手当 204,593 "</p> <p>賞与 70,763 "</p> <p>地代家賃 24,187 "</p> <p>退職給付費用 34,696 "</p> <p>役員退職慰労引当金繰入額 5,886 "</p> <p>法定福利費 38,642 "</p> <p>旅費交通費 31,632 "</p> <p>賃借料 5,211 "</p> <p>減価償却費 12,435 "</p>	<p>4 販売費及び一般管理費のうち、販売費に属する費用及び一般管理費に属する費用のおおよその割合は61%と39%であります。</p> <p>主な費用及び金額は次のとおりであります。</p> <p>販売手数料 16,940千円</p> <p>荷造運送費 177,548 "</p> <p>役員報酬 93,900 "</p> <p>給与手当 207,458 "</p> <p>賞与 72,945 "</p> <p>地代家賃 24,322 "</p> <p>退職給付費用 26,614 "</p> <p>役員退職慰労引当金繰入額 6,048 "</p> <p>法定福利費 41,930 "</p> <p>旅費交通費 33,733 "</p> <p>賃借料 5,014 "</p> <p>減価償却費 10,833 "</p>
<p>5 固定資産売却益の内訳</p> <p>機械及び装置 2千円</p> <hr/> <p>計 2千円</p>	
<p>6 固定資産除売却損の内訳</p> <p>固定資産除売却損の内訳</p> <p>機械及び装置 2,636千円</p> <p>車両運搬具 47 "</p> <p>工具、器具及び備品 66 "</p> <hr/> <p>計 2,750千円</p>	<p>6 固定資産除売却損の内訳</p> <p>固定資産除売却損の内訳</p> <p>機械及び装置 3,515千円</p> <p>工具、器具及び備品 195 "</p> <p>建物 450 "</p> <p>構築物 182 "</p> <hr/> <p>計 4,344千円</p>

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																
<p>7 減損損失</p> <p>当社は各工場別にグルーピングしており、遊休資産については当該資産単独で資産のグルーピングを行なっております。</p> <p>当事業年度においては、以下の資産について減損損失を計上いたしました。</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休</td> <td>土地</td> <td>千葉県山武市</td> <td style="text-align: right;">80,156</td> </tr> <tr> <td>遊休</td> <td>建物・その他</td> <td>千葉県山武市</td> <td style="text-align: right;">2,633</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">82,789</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社の保有する上記遊休資産については、帳簿価額に比ベ市場価額が著しく下落したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(82,789千円)として特別損失に計上いたしました。</p> <p>なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、時価については、主として「不動産鑑定評価基準」に類似した方法に基づいて算定しております。</p>	用途	種類	場所	金額	遊休	土地	千葉県山武市	80,156	遊休	建物・その他	千葉県山武市	2,633	計			82,789	
用途	種類	場所	金額														
遊休	土地	千葉県山武市	80,156														
遊休	建物・その他	千葉県山武市	2,633														
計			82,789														

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式(株)	8,800,000	-	-	8,800,000
自己株式				
普通株式(株)	3,740	870	-	4,610

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

自己株式(普通株式)の単元未満株式買取による増加 870株

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成21年 6月25日 定時株主総会	普通株式	21,990千円	2.5円	平成21年 3月31日	平成21年 6月26日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年 6月28日 定時株主総会	普通株式	21,988千円	利益剰余金	2.5円	平成22年 3月31日	平成22年 6月29日

当事業年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）

1 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式（株）	8,800,000	-	-	8,800,000
自己株式				
普通株式（株）	4,610	998	-	5,608

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

自己株式（普通株式）の単元未満株式買取による増加 998株

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年 6月28日 定時株主総会	普通株式	21,988千円	2.5円	平成22年 3月31日	平成22年 6月29日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成23年 6月23日 定時株主総会	普通株式	26,383千円	利益剰余金	3.0円	平成23年 3月31日	平成23年 6月24日

（キャッシュ・フロー計算書関係）

前事業年度 （自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）	当事業年度 （自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）
1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金勘定 422,201千円	現金及び預金勘定 660,724千円
現金及び現金同等物 422,201千円	現金及び現金同等物 660,724千円

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)												
<p>1 ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産 主として、鹿沼工場における架線金物生産設備(機械及び装置)及び本社におけるホストコンピュータ等(工具、器具及び備品)であります。</li> <li>・無形固定資産 主として、本社における基幹業務用ソフトウェアであります。</li> </ul> <p>(2) リース資産の減価償却の方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>2 オペレーティング・リース取引</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">3,940千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">5,385 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,325千円</td> </tr> </table>	1年内	3,940千円	1年超	5,385 "	計	9,325千円	<p>1 ファイナンス・リース取引</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>(1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産 同左</li> </ul> <p>(2) リース資産の減価償却の方法</p> <p>同左</p> <p>2 オペレーティング・リース取引</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">4,315千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">7,594 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">11,909千円</td> </tr> </table>	1年内	4,315千円	1年超	7,594 "	計	11,909千円
1年内	3,940千円												
1年超	5,385 "												
計	9,325千円												
1年内	4,315千円												
1年超	7,594 "												
計	11,909千円												



(金融商品関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日です。短期借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金と設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、当社の営業販売管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を毎期見直しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券は上場株式であり、四半期ごとに時価の把握を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、管理グループが適時に資金繰計画を作成・更新することにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注)2参照)。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	422,201	422,201	-
(2) 受取手形	383,982	383,982	-
(3) 売掛金	918,112	918,112	-
(4) 投資有価証券			
其他有価証券	66,925	66,925	-
資産計	1,791,222	1,791,222	-

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 支払手形	610,549	610,549	-
(2) 買掛金	342,737	342,737	-
(3) 短期借入金	750,000	750,000	-
(4) 未払法人税等	51,125	51,125	-
(5) リース債務	69,183	67,783	1,399
負債計	1,823,595	1,822,195	1,399

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、並びに(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金、(3) 短期借入金、並びに(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	26,820

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3 リース債務の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債務	22,295	18,684	17,421	10,732	49	-

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日です。短期借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金と設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、当社の営業販売管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を毎期見直しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券は上場株式であり、四半期ごとに時価の把握を行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、管理グループが適時に資金繰計画を作成・更新することにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算出された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注）2参照）。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	660,724	660,724	-
(2) 受取手形	420,572	420,572	-
(3) 売掛金	1,002,141	1,002,141	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	58,711	58,711	-
資産計	2,142,151	2,142,151	-

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 支払手形	855,424	855,424	-
(2) 買掛金	361,848	361,848	-
(3) 短期借入金	500,000	500,000	-
(4) 未払法人税等	104,365	104,365	-
(5) リース債務	46,888	46,872	15
(6) 設備関係未払金(長期設備関係未払金含む)	95,251	95,251	-
負債計	1,963,778	1,963,763	15

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、並びに(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金、(3) 短期借入金、並びに(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 設備関係未払金(長期設備関係未払金含む)

設備関係未払金(長期設備関係未払金含む)の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	26,820
長期預り保証金	43,205

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

また、長期預り保証金については、市場価格がなく、かつ返済時期が確定していないため、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価の開示をしておりません。

3 リース債務及び設備関係未払金(長期設備関係未払金含む)の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債務	18,684	17,421	10,732	49	-	-
設備関係未払金 (長期設備関係未払金含む)	71,258	15,878	8,115	-	-	-

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

1 その他有価証券

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	46,847	40,439	6,407
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	20,078	23,936	3,858
合計	66,925	64,376	2,548

(注) 時価のある銘柄は決算日における時価が帳簿価額を30%以上下回っている銘柄について一律減損処理を行っております。

2 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	52,941	4,184	2,960
合計	52,941	4,184	2,960

当事業年度(平成23年3月31日)

1 その他有価証券

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	18,381	13,232	5,148
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	40,330	47,252	6,922
合計	58,711	60,485	1,773

2 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	139	-	0
合計	139	-	0

3 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について10,017千円(その他有価証券の株式10,017千円)の減損処理を行っております。

なお、時価のある銘柄は、決算日における時価が帳簿価額を30%以上下回っている銘柄について一律減損処理しております。また、時価を把握することが極めて困難と認められる銘柄は、帳簿価額に対して実質価額が50%以上下落した銘柄を減損処理することとしております。

(デリバティブ取引関係)  
該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																				
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、平成15年10月1日からポイント制度による退職一時金制度、確定拠出年金制度及び退職金前払い制度を採用しております。</p> <p>また、東京都電設工業厚生年金基金にも加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は退職給付会計実務指針第33項の例外処理を行う制度であります。</p> <p>なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項 (平成21年 3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">年金資産の額</td> <td style="text-align: right;">141,609,573千円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td style="text-align: right;">208,349,774 "</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">66,740,200千円</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 (平成21年 3月31日現在)</p> <p style="text-align: right;">0.63%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な要因は年金財政計算上の過去勤務債務残高23,058,919千円及び繰越不足金43,681,281千円であります。</p> <p>本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の定率償却であり、当社は当事業年度の財務諸表上、特別掛金15,694千円を費用処理しております。</p> <p>また、上記(2)の割合は当社の実際の負担額割合とは一致しておりません。</p>	年金資産の額	141,609,573千円	年金財政計算上の給付債務の額	208,349,774 "	差引額	66,740,200千円	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、平成15年10月1日からポイント制度による退職一時金制度、確定拠出年金制度及び退職金前払い制度を採用しております。</p> <p>また、東京都電設工業厚生年金基金にも加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は退職給付会計実務指針第33項の例外処理を行う制度であります。</p> <p>なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項 (平成22年 3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">年金資産の額</td> <td style="text-align: right;">164,815,675千円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td style="text-align: right;">192,032,814 "</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">27,217,138千円</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 (平成22年 3月31日現在)</p> <p style="text-align: right;">0.69%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な要因は年金財政計算上の過去勤務債務残高20,198,972千円及び繰越不足金43,681,281千円、別途積立金36,663,114千円であります。</p> <p>本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の定率償却であり、当社は当事業年度の財務諸表上、特別掛金15,951千円を費用処理しております。</p> <p>また、上記(2)の割合は当社の実際の負担額割合とは一致しておりません。</p>	年金資産の額	164,815,675千円	年金財政計算上の給付債務の額	192,032,814 "	差引額	27,217,138千円								
年金資産の額	141,609,573千円																				
年金財政計算上の給付債務の額	208,349,774 "																				
差引額	66,740,200千円																				
年金資産の額	164,815,675千円																				
年金財政計算上の給付債務の額	192,032,814 "																				
差引額	27,217,138千円																				
<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">444,521千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">444,521千円</td> </tr> </table>	退職給付債務	444,521千円	退職給付引当金	444,521千円	<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">430,763千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">430,763千円</td> </tr> </table>	退職給付債務	430,763千円	退職給付引当金	430,763千円												
退職給付債務	444,521千円																				
退職給付引当金	444,521千円																				
退職給付債務	430,763千円																				
退職給付引当金	430,763千円																				
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用等</td> <td style="text-align: right;">29,900千円</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">24,781 "</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">54,681千円</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金への拠出額</td> <td style="text-align: right;">5,397千円</td> </tr> <tr> <td>総合型の掛金拠出額</td> <td style="text-align: right;">40,766千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">100,845千円</td> </tr> </table>	勤務費用等	29,900千円	会計基準変更時差異の費用処理額	24,781 "	小計	54,681千円	確定拠出年金への拠出額	5,397千円	総合型の掛金拠出額	40,766千円	退職給付費用合計	100,845千円	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用等</td> <td style="text-align: right;">29,637千円</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金への拠出額</td> <td style="text-align: right;">5,242千円</td> </tr> <tr> <td>総合型の掛金拠出額</td> <td style="text-align: right;">41,413千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">76,293千円</td> </tr> </table>	勤務費用等	29,637千円	確定拠出年金への拠出額	5,242千円	総合型の掛金拠出額	41,413千円	退職給付費用合計	76,293千円
勤務費用等	29,900千円																				
会計基準変更時差異の費用処理額	24,781 "																				
小計	54,681千円																				
確定拠出年金への拠出額	5,397千円																				
総合型の掛金拠出額	40,766千円																				
退職給付費用合計	100,845千円																				
勤務費用等	29,637千円																				
確定拠出年金への拠出額	5,242千円																				
総合型の掛金拠出額	41,413千円																				
退職給付費用合計	76,293千円																				

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>(1) 流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">4,198千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払事業税</td> <td style="text-align: right;">5,137 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払賞与</td> <td style="text-align: right;">43,980 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払社会保険料</td> <td style="text-align: right;">5,343 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">58,659千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">260千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">58,399千円</td> </tr> </table> <p>(2) 固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">5,203千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減損損失</td> <td style="text-align: right;">119,235 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">180,920 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">21,483 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">4,046 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ゴルフ会員権評価損</td> <td style="text-align: right;">5,098 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">335,987千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">319,234千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">16,752千円</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">1,037千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">1,037千円</td> </tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.70%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">交際費等の損金不算入額</td> <td style="text-align: right;">1.95%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取配当金等の益金不算入額</td> <td style="text-align: right;">0.39%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.97%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">2.41%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">試験研究費税額控除</td> <td style="text-align: right;">1.75%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">0.34%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">43.55%</td> </tr> </table>	たな卸資産評価損	4,198千円	未払事業税	5,137 "	未払賞与	43,980 "	未払社会保険料	5,343 "	繰延税金資産小計	58,659千円	評価性引当額	260千円	繰延税金資産合計	58,399千円	貸倒引当金	5,203千円	減損損失	119,235 "	退職給付引当金	180,920 "	役員退職慰労引当金	21,483 "	投資有価証券評価損	4,046 "	ゴルフ会員権評価損	5,098 "	繰延税金資産小計	335,987千円	評価性引当額	319,234千円	繰延税金資産合計	16,752千円	その他有価証券評価差額金	1,037千円	繰延税金負債合計	1,037千円	法定実効税率	40.70%	(調整)		交際費等の損金不算入額	1.95%	受取配当金等の益金不算入額	0.39%	住民税均等割	0.97%	評価性引当額	2.41%	試験研究費税額控除	1.75%	その他	0.34%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.55%	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>(1) 流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">3,343千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払事業税</td> <td style="text-align: right;">8,303 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払賞与</td> <td style="text-align: right;">52,056 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払社会保険料</td> <td style="text-align: right;">8,026 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">1,223 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">72,953千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">241千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">72,712千円</td> </tr> </table> <p>(2) 固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">5,407千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減損損失</td> <td style="text-align: right;">118,932 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">175,320 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">23,944 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">4,046 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ゴルフ会員権評価損</td> <td style="text-align: right;">5,505 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">721 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">2,431 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">336,311千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">334,309千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">2,001千円</td> </tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.70%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">交際費等の損金不算入額</td> <td style="text-align: right;">1.39%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取配当金等の益金不算入額</td> <td style="text-align: right;">0.21%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.62%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">4.08%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">試験研究費税額控除</td> <td style="text-align: right;">1.42%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">0.36%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">44.80%</td> </tr> </table>	たな卸資産評価損	3,343千円	未払事業税	8,303 "	未払賞与	52,056 "	未払社会保険料	8,026 "	その他	1,223 "	繰延税金資産小計	72,953千円	評価性引当額	241千円	繰延税金資産合計	72,712千円	貸倒引当金	5,407千円	減損損失	118,932 "	退職給付引当金	175,320 "	役員退職慰労引当金	23,944 "	投資有価証券評価損	4,046 "	ゴルフ会員権評価損	5,505 "	その他有価証券評価差額金	721 "	その他	2,431 "	繰延税金資産小計	336,311千円	評価性引当額	334,309千円	繰延税金資産合計	2,001千円	法定実効税率	40.70%	(調整)		交際費等の損金不算入額	1.39%	受取配当金等の益金不算入額	0.21%	住民税均等割	0.62%	評価性引当額	4.08%	試験研究費税額控除	1.42%	その他	0.36%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.80%
たな卸資産評価損	4,198千円																																																																																																														
未払事業税	5,137 "																																																																																																														
未払賞与	43,980 "																																																																																																														
未払社会保険料	5,343 "																																																																																																														
繰延税金資産小計	58,659千円																																																																																																														
評価性引当額	260千円																																																																																																														
繰延税金資産合計	58,399千円																																																																																																														
貸倒引当金	5,203千円																																																																																																														
減損損失	119,235 "																																																																																																														
退職給付引当金	180,920 "																																																																																																														
役員退職慰労引当金	21,483 "																																																																																																														
投資有価証券評価損	4,046 "																																																																																																														
ゴルフ会員権評価損	5,098 "																																																																																																														
繰延税金資産小計	335,987千円																																																																																																														
評価性引当額	319,234千円																																																																																																														
繰延税金資産合計	16,752千円																																																																																																														
その他有価証券評価差額金	1,037千円																																																																																																														
繰延税金負債合計	1,037千円																																																																																																														
法定実効税率	40.70%																																																																																																														
(調整)																																																																																																															
交際費等の損金不算入額	1.95%																																																																																																														
受取配当金等の益金不算入額	0.39%																																																																																																														
住民税均等割	0.97%																																																																																																														
評価性引当額	2.41%																																																																																																														
試験研究費税額控除	1.75%																																																																																																														
その他	0.34%																																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.55%																																																																																																														
たな卸資産評価損	3,343千円																																																																																																														
未払事業税	8,303 "																																																																																																														
未払賞与	52,056 "																																																																																																														
未払社会保険料	8,026 "																																																																																																														
その他	1,223 "																																																																																																														
繰延税金資産小計	72,953千円																																																																																																														
評価性引当額	241千円																																																																																																														
繰延税金資産合計	72,712千円																																																																																																														
貸倒引当金	5,407千円																																																																																																														
減損損失	118,932 "																																																																																																														
退職給付引当金	175,320 "																																																																																																														
役員退職慰労引当金	23,944 "																																																																																																														
投資有価証券評価損	4,046 "																																																																																																														
ゴルフ会員権評価損	5,505 "																																																																																																														
その他有価証券評価差額金	721 "																																																																																																														
その他	2,431 "																																																																																																														
繰延税金資産小計	336,311千円																																																																																																														
評価性引当額	334,309千円																																																																																																														
繰延税金資産合計	2,001千円																																																																																																														
法定実効税率	40.70%																																																																																																														
(調整)																																																																																																															
交際費等の損金不算入額	1.39%																																																																																																														
受取配当金等の益金不算入額	0.21%																																																																																																														
住民税均等割	0.62%																																																																																																														
評価性引当額	4.08%																																																																																																														
試験研究費税額控除	1.42%																																																																																																														
その他	0.36%																																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.80%																																																																																																														

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

当社は、生産工場の解体時におけるアスベスト除去費用等につき資産除去債務を計上しております。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間は31年と見積っております。なお、当該生産工場については、既に使用見込期間を経過していることから、割引計算を行っておりません。

3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高(注)	5,975千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	- "
時の経過による調整額	- "
期末残高	<u>5,975千円</u>

(注) 当事業年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。



(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社は、千葉県において、遊休不動産(土地及び建物等)を有しております。平成22年3月期における当該遊休不動産の賃貸収益は7,800千円(営業外収益に計上)、減損損失は82,789千円(特別損失に計上)であります。

賃貸等不動産の貸借対照表計上額及び当事業年度における主な変動並びに決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位:千円)

貸借対照表計上額			決算日における時価
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
482,927	83,402	399,525	399,525

(注)1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 当期の増減額は減損損失82,789千円及び減価償却費613千円であります。

3 時価の算定方法

当期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に類似した方法に基づいて算定した金額であります。

(追加情報)

当事業年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

当社は、千葉県において、遊休不動産(土地及び建物等)を有しております。平成23年3月期における当該遊休不動産の賃貸収益は7,800千円(営業外収益に計上)であります。

賃貸等不動産の貸借対照表計上額及び当事業年度における主な変動並びに決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位:千円)

貸借対照表計上額			決算日における時価
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
399,525	420	399,104	399,104

(注)1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 当期の増減額は減価償却費420千円であります。

3 時価の算定方法

当期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に類似した方法に基づいて算定した金額であります。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分を決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は鉄鋼製品の製造販売を主たる事業とし、取り扱う製品・サービス別に「電力通信部門」、「建材部門」としております。各事業部門は、国内の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部門を基礎とした製品サービス別セグメントから構成されており、「電力通信部門」及び「建材部門」の2つを報告セグメントとしております。

「電力通信部門」は、主として架線金物及び鉄塔・鉄構を製造販売しております。「建材部門」は、主として建築用資材のスタッドを製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：千円)

	電力通信部門	建材部門	合計
売上高			
外部顧客への売上高	3,903,598	1,067,189	4,970,788
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	3,903,598	1,067,189	4,970,788
セグメント利益	529,026	75,389	604,416
セグメント資産	2,316,860	497,162	2,814,023
その他の項目			
減価償却費	137,181	11,391	148,572
有形無形固定資産増加額	52,028	4,041	56,070

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	電力通信部門	建材部門	合計
売上高			
外部顧客への売上高	4,538,424	1,068,158	5,606,582
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	4,538,424	1,068,158	5,606,582
セグメント利益	658,145	13,070	671,216
セグメント資産	2,379,322	517,043	2,896,365
その他の項目			
減価償却費	134,369	8,089	142,459
有形無形固定資産増加額	149,398	771	150,169

4. 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	604,416	671,216
全社費用(注)	316,964	329,480
財務諸表の営業利益	287,452	341,736

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

資産	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	2,814,023	2,896,365
全社資産(注)	1,082,276	1,312,832
財務諸表の資産合計	3,896,299	4,209,197

(注)全社資産は、報告セグメントに帰属しない主に本社有形固定資産であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		財務諸表計上額	
	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度
減価償却費	148,572	142,459	6,684	5,202	155,256	147,662
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	56,070	150,169	505	2,069	56,575	152,238

(注)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社車輛の設備投資額であります。

【関連情報】

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	電力通信部門	建材部門	合計
外部顧客への売上高	4,538,424	1,068,158	5,606,582

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
北陸電力(株)	882,297	電力通信部門
イワブチ(株)	857,694	電力通信部門

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主(会社等)が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社の子会社含む)	(株)メタルワン建材	東京都千代田区	10,000,000	建設用鋼材の販売	-	主要な原材料等の購入先	営業取引	原材料等の購入	179,693	買掛金	16,308
										支払手形	120,782

(注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等

原材料等の購入は、市場価格によっております。

- 2 (株)メタルワン建材は、当社の主要株主であった三菱商事(株)が議決権の60%を所有している(株)メタルワンの100%子会社でありましたが、三菱商事(株)が当事業年度中に主要株主ではなくなったことから、(株)メタルワン建材についても、主要株主(会社等)が議決権の過半数を所有している会社等ではなくなりました。したがって、上記取引金額につきましては、(株)メタルワン建材が関連当事者であった期間の取引金額、また、期末残高については、関連当事者に該当しなくなった時点での残高をそれぞれ記載しております。

なお、関連当事者との取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	147.75円	1株当たり純資産額	166.90円
1株当たり当期純利益金額	14.33円	1株当たり当期純利益金額	22.03円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。	

(注) 算定上の基礎

1. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益(千円)	126,071	193,743
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	126,071	193,743
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,796	8,795

2. 1株当たり純資産額

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,299,494	1,467,778
普通株式に係る純資産額(千円)	1,299,494	1,467,778
差額の主な内訳(千円)	-	-
普通株式の発行済株式数(千株)	8,800	8,800
普通株式の自己株式数(千株)	4	5
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	8,795	8,794

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
投資有価 証券	その他 有価証券	(株)ホテルニューオータニ高岡	150	15,000
		(株)トーエネック	24,426	12,042
		イワブチ(株)	21,000	10,605
		北陸電力(株)	5,000	9,420
		(株)関電工	12,000	5,640
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,100	5,430
		(株)富山第一銀行	43,000	4,763
		北陸電気工事(株)	15,000	4,245
		(株)東海通信資材サービス	8,000	4,000
		(株)ほくほくフィナンシャルグループ	24,000	3,888
		その他5銘柄	35,310	10,497
		小計	189,986	85,532
		計	189,986	85,532

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,131,572	52,225	11,462	1,172,335	971,203	17,253	201,132
構築物	175,775	4,820	1,650	178,945	157,215	4,437	21,730
機械及び装置	1,835,462	67,898	8,919	1,894,441	1,601,084	90,630	293,356
車両運搬具	13,715	1,918	-	15,633	13,933	1,126	1,699
工具、器具及び備品	177,158	11,167	7,686	180,639	162,756	10,434	17,883
土地	516,685	-	-	516,685	-	-	516,685
リース資産	112,724	-	9,200	103,523	56,791	21,171	46,732
建設仮勘定	4,368	61,172	56,502	9,038	-	-	9,038
有形固定資産計	3,967,462	199,201	95,420	4,071,243	2,962,984	145,053	1,108,259
無形固定資産							
ソフトウェア	7,665	3,957	-	11,622	6,603	973	5,019
電話加入権	1,972	-	-	1,972	-	-	1,972
リース資産	5,469	-	5,469	-	-	1,063	-
その他	-	5,581	-	5,581	-	-	5,581
無形固定資産計	15,107	9,538	5,469	19,176	6,603	2,036	12,573
長期前払費用	11,972	200	-	12,172	10,932	1,845	1,240

- (注) 1 建物の当期増加額には、主として鹿沼工場の消火設備7,620千円及び富山工場の事務所改装工事23,070千円、簡易製品倉庫12,365千円が含まれております。
- 2 機械及び装置の当期増加額には、主として鹿沼工場の架線製造設備52,602千円、鍍金加工設備2,350千円及び富山工場の鍍金加工設備7,800千円が含まれております。
- 3 建設仮勘定の当期増加額には、主として鹿沼工場の架線製造設備12,088千円、鍍金加工設備2,350千円及び富山工場の事務所改装工事5,848千円、簡易製品倉庫12,983千円、鍍金加工設備4,014千円、溶接機械5,775千円が含まれております。



【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	750,000	500,000	1.9	-
1年以内に返済予定のリース債務	22,295	18,684	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	46,888	28,204	-	平成24年8月21日～ 平成26年6月28日
その他有利子負債				
設備関係未払金	-	15,420	0.3	-
長期設備関係未払金(設備関係未払金を除く。)	-	23,993	0.3	平成25年9月20日
合計	819,183	586,301	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の「平均利率」については、リース資産総額に重要性が乏しいため利息相当額を控除しない方法によっているため、記載しておりません。

3 リース債務及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	17,421	10,732	49	-
その他有利子負債	15,878	8,115	-	-

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	14,634	631	-	396	14,870
役員退職慰労引当金	52,784	6,048	-	-	58,832

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度末における資産除去債務の金額が、当該事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

( 2 ) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	881
預金	
当座預金	656,250
普通預金	3,503
別段預金	89
計	659,843
合計	660,724

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
北陸電気工事(株)	87,172
イワブチ(株)	75,298
(株)木屋製作所	28,631
北通産(株)	16,887
(株)北斗	16,369
その他	196,213
合計	420,572

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成23年4月	145,695
平成23年5月	124,793
平成23年6月	91,649
平成23年7月	49,602
平成23年8月	8,831
合計	420,572

売掛金  
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
北陸電力(株)	143,756
(株)トーエネック	129,651
大成建設(株)	113,031
全国通信用機器材工業協同組合	88,346
イワブチ(株)	85,052
その他	442,303
合計	1,002,141

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	次期繰越高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{(B)}$ 2 365
918,112	5,886,911	5,802,882	1,002,141	85.3	59.53

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品及び製品

品名	金額(千円)
架線金物	250,366
その他	88,739
合計	339,106

仕掛品

品名	金額(千円)
架線金物	222,903
その他	66,333
合計	289,236

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
線材	39,342
棒鋼	1,606
平鋼	1,801
形鋼	27,761
鋼管	2,723
切板	4,637
蒸留亜鉛	5,232
その他	15,372
計	98,477
貯蔵品	
工場消耗品	23,100
荷造材料	3,689
その他	3,900
計	30,690
合計	129,168

支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
阪和興業(株)	173,681
(株)メタルワン建材	120,431
(株)オーアンドケー	66,778
ヤマト・インダストリー(株)	62,421
豊田通商(株)	34,337
その他	397,773
合計	855,424

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成23年4月	208,835
平成23年5月	228,500
平成23年6月	226,125
平成23年7月	191,962
合計	855,424

買掛金

相手先	金額(千円)
阪和興業(株)	42,607
(株)アイキ	35,838
(株)メタルワン建材	27,709
豊田通商(株)	15,489
(株)オーアンドケー	13,875
その他	226,326
合計	361,848

退職給付引当金

内容は注記事項(退職給付関係)に記載のとおりであります。

(3)【その他】

当事業年度における各四半期会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	第2四半期 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	第3四半期 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	第4四半期 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高(千円)	1,119,749	1,302,473	1,701,855	1,482,503
税引前四半期純利益金額 (千円)	48,004	95,962	143,435	63,591
四半期純利益金額 (千円)	23,622	54,046	80,589	35,485
1株当たり四半期純利益 金額(円)	2.69	6.14	9.16	4.03

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.otanikogyo.com/">http://www.otanikogyo.com/</a>
株主に対する特典	毎決算期末現在の単元株主に対して、年1回3,000円相当の株主優待を贈呈。(当社事業所所在地の名産品またはグループ各社の製品)

- (注) 1 定款の規定により、中間分配金(中間配当)を受ける者を確定するため、取締役会の決議によりあらかじめ公告して、株主名簿の記載の変更を停止することがあります。
- 2 当会社の単元未満株主(実質株主を含む)は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利を行使することができない旨を定めております。
- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
  - (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
  - (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第71期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日） 平成22年6月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第72期第1四半期（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日） 平成22年8月10日関東財務局長に提出

第72期第2四半期（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日） 平成22年11月9日関東財務局長に提出

第72期第3四半期（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日） 平成23年2月8日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月28日

株式会社 大谷工業  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 小島 洋太郎

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 青柳 淳一

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大谷工業の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第71期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大谷工業の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社大谷工業の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社大谷工業が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月23日

株式会社 大谷工業  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 小島 洋太郎

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 青柳 淳一

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大谷工業の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大谷工業の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社大谷工業の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社大谷工業が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。